

令和5年第7回田布施町議会定例会一般質問通告一覧表

質問者1 神田 栄治

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 上水道事業の方向性について	<p>当町の水道事業は、昭和43年度に平生町と一部事務組合である田布施・平生水道企業団を設立し現在に至っているが、水道事業を取り巻く環境は、厳しいものがある。人口減少に伴う給水収益の減少、老朽管等施設の更新などの工事費の増大等により将来的な経営環境は非常に厳しいことから、国、県は広域圏での経営統合を推奨している。柳井地域広域圏においても検討しているが、経営統合に向け解決しなければならない下記の点について、お尋ねする。</p> <p>①田布施・平生水道企業団は解散するのか。 ②田布施川の水源は残すのか。 ③現在受けている補助金の名称と補助金額の推移は。併せて、統合後の補助金の名称と予想金額は。 ④広域圏構成市町の現在の経営状況と統合後の経営状況の予測は。黒字になっているか。 ⑤事務所の集約により発生する現場対応の所要時間増への対応は。 ⑥統合によるメリット、デメリットは何か。</p>	町長
(2) 第3期教育振興基本計画について	<p>令和5年度から令和9年度までを計画期間とした第3期の教育振興基本計画が策定された。平成25年度に第1期基本計画が策定され、第2期終了(令和4年度)までの10年間の成果と今後取り組むべき課題はなにか、その課題を今期計画でどのように解決しようとしているのか。また、今期計画の重点取組事項は何か。併せて、下記個別事項についての対策をお伺いします。</p> <p>①増加の一途をたどる不登校児童・生徒数の減少に向けた対策。 ②長時間労働で疲弊している学校現場の改善対策。 ③郷土愛をはぐくむ教育として何を実施しているか。 ④図書館サービス(特設コーナー設置など)の充実状況。</p>	教育長

質問者2 西本 篤史

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 来年度予算について	<p>令和5年度一般会計当初予算は前年度に比べ4億200万円減額の64億9,000万円であったが、9月上半期には73億7,000万円に増額された。原因は光熱費や新型コロナ対策なのでしょうか。来年度予算は現状を把握し計画を立てて頂きたい。デジタル化を推進するが、今後の維持管理費の増大も懸念される。事業計画の優先順位を決めて執行して頂きたい。</p> <p>①少子化対策:住宅地の拡大、婚活イベントの開催、マッチングアプリ開設 ②住みよい町対策:公式ラインアカウント開設(災害時の緊急情報や市の取組、イベント、プロモーション情報など) ③高額納税者の誘致、駅前整備 など</p>	町長

(2) 少子高齢化問題 農地の有効利用について	<p>2050年問題では、今後農家は8割減、農家は倒産し、老老営農時代になると予想される。現在の農業従事者の平均年齢は68歳で、町内でも離農される方が増えるのではないかと。国は大規模営農を後押しするが、個人農家が頑張って農村風景が保たれている。今後、圃場整備されていない圃場は、後継者も大規模営農者も耕作は困難と思われる。また、食料安全保障では、現在国の食料自給率は38%である。町も地産地消を行い、食料自給率を上げてはどうか。</p> <p>①生産性の高くない、優良農地でもない1種農地は、農振から外し2種農地へ。 ②住宅地に近い農地は3種農地へ。 ③住宅地を増やし、若者定住対策をしてはどうか。 ④若い後継者に年収保障をしてはどうか。</p>	町長
(3) 町内の国立公園の維持管理について	<p>環境省の調査で全国の国立公園において歩道など整備や保全を担う管理者が設置されていない路線が50%あることがわかった。町内も馬島、勿島など瀬戸内海国立公園に指定されている。(勿島は第2種特別地域) 整備・管理できているか。</p>	町長

質問者 3 内山 昌晃

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 県立高校再編について	<p>熊毛郡3町では、高校存続協議会を設置し、郡内高校の存続を県や県教委に要望等してきましたが、熊毛南高校は柳井高校へと再編統合され、普通科及び商業に関する高校へ、田布施農工高は、農業、工業及び家庭に関する高校へ再編統合される旨の説明が県教委よりあり、校地は、それぞれ柳井高校、田布施農工高校となるようです。本町として大変馴染みの深い熊毛南高校の消滅、また、田布施農工高校は存続が決定したとはいえ、今後ますます少子化が進行し、県内の生徒数が減少していく中、次の統廃合の対象になりかねないと危惧しているところです。</p> <p>この再編統合を機に、町として今後の高校存続に向けどのように施策を展開していくのか、以下のことについて質問する。</p> <p>①通学圏外からの生徒の誘致 ②部活の移行 ③教室や部活の練習場所の不足 ④地域との連携 ⑤駅前整備</p>	町長
(2) 町職員の定員管理について	<p>人口減少や少子高齢化の進展、行政需要の多様化、更に近年は、異常気象による災害の発生や新型コロナウイルス等の発生等、地方公共団体を取り巻く環境は、日々変化しています。こうした状況に対応するためには、地域の事情を勘案し、行政課題に適切に取り組むことのできる定員管理及び職員配置が重要です。本町の職員数はH22・23年度の127人が最小で、その後微増し、最近では145人前後に落ち着いています。そこで、以下のことについて質問する。</p> <p>①定員管理計画を策定し、計画的に職員採用を行っているか。 ②適正な定員管理となるよう、類似団体や定員モデルとの比較、研究をしているか。 ③役職定年職員、再任用職員、会計年度任用職員、兼務職員それぞれの</p>	町長

	<p>役割が定義づけされ、運用されているか。</p> <p>④子育て支援等、町長肝いりの施策を担う部署は手厚くなっているか。</p> <p>⑤日常的な超過勤務者がいる部署については、事務分掌の見直しや増員を検討しているか。</p> <p>⑥現状の職員数は充足されているか。</p>	
(3) 上関中間貯蔵施設について	<p>中国電力は、上関町で使用済み核燃料の中間貯蔵施設の建設に向けた調査を進めていることについて、近隣市町である柳井市、周防大島町、平生町に、そして本町へは11月30日に説明を行われました。</p> <p>内容については、新聞等で報道されていますが、懸念や不安を持っている町民もいることから、どのような内容の説明があったのか、それを受け町長はどう受け答えしたのかお尋ねする。</p>	町長

質問者4 瀬石 公夫

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 令和6年度の国保税、介護保険料を引き下げでは	<p>4年前、コロナウイルス感染拡大による様々な行動制限や収入減少で、長いトンネルの中にいるような気分でしたが、少し明るい兆しも見えてきました。</p> <p>一方、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルとハマス戦闘を受けて、食料、石油、電気代をはじめ様々な物価が上昇し、給料や年金が増えない中、生活を切り詰めていかななくてはなりません。町民の生活を守るため、国保税、介護保険料を基金の活用でまかない引き下げでは。</p> <p>①国保一人当たり医療費は、令和2年度47万4,978円、3年度46万9,114円、4年度47万1,920円とほぼ横ばいである。こうしたことから、基金1億7,858万8千円を活用して国保税を下げでは。</p> <p>②県下の国保の保険料水準の統一の時期や前提条件について、どこまで進んでいるのか。</p> <p>③介護給付費の総額は、この3年間13億円台で推移しており、介護給付費はほぼ横ばいである。基金2億1,877万7千円を活用して介護保険料を下げでは。</p>	町長
(2) 生成AI「チャットGPT」などの活用について	<p>生成AI「チャットGPT」の登場をきっかけに、文章や画像などを自動で作る生成AIを中心とした開発競争が世界的に加速している。</p> <p>この生成AIは、行政の効率化や地域の課題解決など様々な可能性を持っている。特に、瞬時に膨大なデータがえられることで課題を見つけ拾い上げることなどができる利点がある。</p> <p>しかし一方では、偽情報拡散や人権侵害といったリスクの軽減対策やルールづくりが必要になってくると思われる。本町ではこうしたことを踏まえ、生成AI導入に向けた活用と課題を検討されているか。</p> <p>①生成AIの活用により、町外で起きている課題を見つけ拾い上げることができるなど、広い視野をもった行政サービスができると思うがいかがか。</p> <p>②生成AIの導入の見通しは。また、運用ルールづくりはどのように考えているか。</p> <p>③日本はAIの研究が進む他国とくらべ遅れを取っているといわれている。多くの人がAIを使用することで研究開発が進むと思うが。</p>	町長

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>(1) 誰もが生涯スポーツを楽しめる推進計画を</p>	<p>平成26年度から10年間、推し進めてきた「田布施町スポーツ推進計画」が、途中の改定を経て令和5年度で最終年度を迎える。その間には、スポーツセンターの指定管理を外し、町の方で直轄して管理をしてきた経緯がある。</p> <p>令和6年度から始まる次期計画の策定に向けた準備を怠りなく進めているとは思いますが、「生涯スポーツのまち田布施」の基本理念の実現に向けて、これまで10年間取り組んできたことを検証する必要がある。</p> <p>①10年間取り組んできた基本方針について3点別に達成状況、さらに成果と課題は？</p> <p>②次期計画の策定に向けた5年度当初からの計画推進の進捗状況は？</p> <p>③計画を策定し、計画を推進することができる職員の体制は万全か？</p> <p>④部活から地域へのスポーツ組織の移行は生涯スポーツの立場で。</p> <p>⑤田布施町の3大スポーツイベントである田布施川桜まつりロードレース大会を縮小ではなく中止した主な理由は？</p> <p>⑥多くの障がい者が気軽に参加できるパラスポーツの振興を。</p>	<p>町長 教育長</p>
<p>(2) 関係人口を創出し、地域振興を</p>	<p>田布施町では、通過型観光が多く、滞在型観光に移行する必要があるが、宿泊施設が馬島以外にない段階にある今、移行へのハードルは高い。</p> <p>田布施町の周辺地区では少子高齢化が進み、その地区内の里山整備が進まず、不耕作地も増える一方である。</p> <p>総務省では、それを解決するために町外から人材を受入れ、交流人口より地区住民との関係を密にとるといった関係人口増による地域振興を奨励し、補助金も出している。</p> <p>①町内で、関係人口を創出し、地域振興をしている地区は？</p> <p>②周辺地区住民との接点を持って状況把握し、地域振興のために町外在住の職員を関係人口の突破口に。</p> <p>③農業経験者の多い周辺地区の不耕作地に週末農業の体験場を。</p> <p>④ふるさと納税者を対象に行事や祭りを通じた関係人口創出の取組を。</p> <p>⑤地域おこし協力隊員（観光振興）に、関係人口創出の取組を。</p> <p>⑥関係人口を創出するために、関係人口を創出している「かかわりラボ」への自治体加入により、他市町との情報交換を。</p>	<p>町長</p>

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>(1) 子どもを核としたまちづくり どう取り組むか</p>	<p>世界では戦争や紛争で多くの犠牲者が出ている。民間人での犠牲者の多くは子どもや女性である。ガザ地区での戦争では死者の4割を子どもが占め、国連のグテーレス事務総長は「子ども達の墓場」と即時停戦を呼びかけている。1989年国連総会にて採択された「子どもの権利条約」は、196もの国や地域が批准。4つの原則は、今年4月に施行された「子ども基本法」にも取り入れられている。子どもは町の宝。田布施町では、今年度から、満1歳までのおむつ無償化、18歳までの医療費実質無償化など国に先駆け実施、大変評価できるところである。更なる子ども支援を進めるため、行政、教育両面から問う。</p>	<p>町長 教育長</p>

	<p>①柳井市、平生町と共に行うファミリーサポートセンター（以下ファミサポという）、年間の町民利用者はどれぐらいおられるか。</p> <p>②ファミサポ、おんとも、ポコ・ア・ポコ、2525たぶせの違いは。</p> <p>③子育て支援の核となる場所、窓口を創設してはどうか。</p> <p>④町内での不登校児童、生徒数とその支援はどのようにされているか。</p> <p>⑤不登校児童等支援をする団体への資金面での支援は考えられないか。</p>	
<p>(2) これからの移住定住どう取り組むか</p>	<p>現在の田布施町の人口は、11月末現在、1万4,357人。毎年、200人前後のペースで減少。これは多くの自治体が直面している喫緊の課題である。各自治体が移住定住政策に一生懸命取り組まれている。</p> <p>田布施町は、令和7年度までの第6次総合計画の基本目標6「にぎやかで活力のあるまちづくり」の中に、移住定住の促進がある。その中には主要施策として、UJIターン希望者への情報提供や地域おこし協力隊制度の活用、空家バンクの活用、住宅取得支援事業や町内に住む若い人の交流イベントの開催など地域に若い人が集まるきっかけをつくる、などあげられている。そこで現在までの取組とその問題点を洗い出し、更なる移住定住施策の推進へ向け関連する事項を尋ねる。</p> <p>①移住定住政策にかかわる部署と担当職員数、移住定住世帯の推移は。</p> <p>②たぶせUJI推進協議会の構成員および年間予算と今年度の活動は。</p> <p>③移住体験暮らし、今年状況は。</p> <p>④現在の町内の空家数と居住に使える建物数は。</p> <p>⑤近年住宅取得支援事業の利用件数及び町外からの世帯数は。</p>	町長

質問者 7 松田 規久夫

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>(1) 新型コロナ対策を振り返る</p>	<p>住民の安心・安全を守るため、役場組織一丸となり感染症対策に対処したと言える。初めての経験で戸惑う場面もあったと思うが、職員一同頑張ったと思う。様々な住民組織の協力もあり、対策実施が可能となった案件もあったと思う。コロナ患者の生活環境には差があり、一律の対応は困難で、また、苦情等で苦勞した職員もいたであろう。患者の発生から感染症が5類となるまでの約3年間の振り返りを尋ねる。</p> <p>①補助金で町の予算は2～3割増となったが、使途は適正か、効果は。</p> <p>②今、政府は異次元の子育て対策と言っているが、子育てに関しては。</p> <p>③感染症対策として約3年間の総括はしたのか、また、その結果は。</p> <p>④ワクチン接種はどのように推移したのか、無料化の今年度の予想は。</p> <p>⑤集団となる学校、幼稚園・保育園の子どもの対応で困難なことは。</p>	町長 教育長
<p>(2) 図書館の岸文庫、佐藤文庫</p>	<p>図書館には岸文庫、佐藤文庫がある。ご存知の人は高齢者に多く、スマホ世代の若い人は知らないように思う。岸文庫、佐藤文庫の読者は少数で利用は多くないが、田布施町にとって蔵書は貴重な財産である。当然、粗末には扱えないし、良好な管理、保存が望まれる。それ故、私には図書館スペースの2割程度が占有されていると思える。10月に図書保管庫、建物屋上、各種帳票、事務処理などを点検、視察した。この結果から2つの提案をしたい。</p> <p>①新たに保健センターが完成し、西公民館の事務室が空室となっている。エアコンもあり温度管理が可能なので、図書館分館としてはどうか。城南の吹田邸には、吹田文庫があると聞く。町民で貴重な本を多</p>	町長

	<p>数持っておられる人も、後継者の問題で寄付したい人がおられるかもしれない。広報紙で寄付を呼びかけ図書館分館の宣伝をする。</p> <p>②以前提案した川の駅。交流館、図書館エリアを文教地区として、萩市の明倫館を参考に、郷土館の展示物と文庫本が収容でき、費用の削減が可能なプレハブ校舎を新築する。移転後の旧郷土館は町の中心部にあり、契約は解除しなくても利用方法はあると思う。</p>	
(3) 公民館は新築せず小学校へ	<p>急激な少子化で現在の出生数は年間約70人。10年後を考えると、希望的な数字でも50人程度となりそうである。小学校、幼稚園・保育園の将来構想を9月議会で質問し、当面は現状のままとの回答を得た。統廃合について住民と保護者の強い要望があれば、町の財政力の制約はあるが可能な限り存続が望ましい。しかし、統合のハードルを乗り越えるのは困難と思う。近い将来、避けて通れぬ話題だろう。現在の4校は、いずれ1校になるだろう。麻里府公民館は災害時の避難所になるので、予想される津波の高さ以上の高台に海岸から移転新築される。他の4地区の公民館は小学校の近くにあるが、麻里府公民館同様に公民館の更改が予想される。中央公民館、麻里府公民館と新築だが、4地区の公民館は小学校に近いので、古くなった公民館は建替えず小学校に移転すべきである。新築という住民費用負担を回避すべきである。将来構想として残り4地区の公民館は新築せず、各地区の小学校へ移転と明確にすべきと思うので尋ねる。</p>	町長

質問者8 伊村 渉

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 田布施町内の各自治会編成	<p>現在、町内に73の自治会がある。町内を分析すると、中心部と端の方では多くの違いがあり、麻里府地区では地域の高齢化により、10年前と比べて30%以上人口が減った。特に尾津西自治会では、全戸数の約43%が独居である。班の維持や自治会の運営が非常に難しくなっている。尾津東自治会では、約24%が独居、尾津中自治会が約20%である。この状態は、各自治会の会長を始めとする役員を受ける事が危ぶまれている。又、一人が何役も受けている人も複数おられる。役職の継続も難しい状態である。人口減少は班編成も考えなくてはいけない状況である。空き家、更地が増えて行く中で、次の家に回覧板を回す事が年々難しくなっている。そこで質問する。</p> <p>①町内各自治会の運営で問題点はないか(役職、班編成について)等現況の不満点の調査を行う事は出来ないか。</p> <p>②町からの配布資料(回覧)について、現在の回覧配布方法で問題点はないか。</p> <p>③民生委員・児童委員についての調査(現状の人数、調査内容で良いか)</p>	町長
(2) 町内緊急避難時の連絡網	<p>近年の雨は線状降水帯の発生により、一つの場所に集中的に降る豪雨が多発して、全国では至る所で土砂崩れ、土石流災害、河川の氾濫により尊い人命が奪われている。町内でも、毎年の様に避難場所の開設案内が町内放送により行われ、被害も発生している。町内各公民館や避難場所に避難時の避難備品等が設置してあり、年に一回程度は避難訓練を計画し、実行した自治会もあり、地域住民の避難意識は昔とは様変わりして高くなっている。そこで、避難発生時、地域住民への連絡方法と避難</p>	町長

	<p>支援の必要な避難者、高齢者の移手段が大事である。又、住民の高齢化により、独居家庭の場合、住居環境が刻々と変化する事が多く、絶えず情報の共有を自治会内で把握が必要である。そこで質問する。</p> <p>①風水害、高潮等で避難指示が発動された時、連絡方法の対応は、自治会、地域消防団との連携は出来ているか。</p> <p>②移動方法はどの様な方法を取るか。</p> <p>③要支援者の場合の避難は、どの様にするか。</p>	
--	--	--

質問者9 河内 賀寿

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 電気自動車(EV車)の充電器、もっと設置できないか	<p>町内5ヶ所に、電気自動車(EV車)の充電器が設置された。馬島の波止場では、観光前に充電器につなぎ、帰りに満タンで帰れるなどの用途説明があった。役場周辺だと、保健センター前に1器設置された。</p> <p>さて、役場の公用車のEV車化も徐々に進み、民間のEV車も毎年台数が増えて、立地のいい役場充電器の利用頻度も、ますます増加するはず。問題は、1基では充電待ちの列がいずれはできること。</p> <p>急速充電器か普通充電器かなど、設置コストの差はあるだろうが、立地のいい役場の充電器を3基などに増やせないか。もちろん新たな設置予定などあれば説明願う。</p>	町長
(2) 町役場、新築できないか	<p>上関町、平生町と役場が新築された。50年経ち、寿命がきたための新築や、合併し自治体が大きくなったことによる新築など、国の補助金や独自財源等、新築予算は日本中でいろいろだろう。</p> <p>本町も、前町長時代に新築の議論はあったが、結局、耐震補強しただけで終わった。南海トラフ地震や津波はいずれ来る。本町も、上関や平生町役場に習い、新築できないか。4階建てないし5階建てなら、津波からの避難所としても使用できる。場所は、現在の駐車場にするか別にするかは、今後議論すればよいこと。</p>	町長

質問者10 落合 祥二

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 田布施・平生水道企業団の解散について	<p>令和5年3月に策定された山口県水道ビジョン(広域連携シミュレーション編)では、「水道事業は、施設老朽化に伴う更新需要の増加や人口減少に伴う給水収益の減少、水道職員の減少による技術力の低下等の様々な課題が山積しており、これらの課題解決の方策の一つとして、事業者間の連携による基盤強化やスケールメリットの創出を目的とした広域連携の推進が重要」としている。</p> <p>こうしたこともあり、柳井市、田布施町、平生町、上関町、周防大島町の1市4町と田布施・平生水道企業団、柳井地域広域水道企業団の2企業団では、令和7年4月1日を目途に水道事業経営の一体化(経営統合)を検討している。</p> <p>そのスケジュール(案)の中に、令和6年12月に田布施・平生水道企業団解散とある。</p>	町長

	田布施・平生水道企業団解散について、どのように考えているか尋ねる。	
(2) 介護難民について	<p>介護人材は、介護労働安定センターが公表した令和4年度介護労働実態調査結果によると、介護事業所の66.3%が人材不足(大いに不足・不足・やや不足の計)を訴えている。なかでも訪問介護員(ホームヘルパー)は実に83.5%の事業所が人材不足を訴え深刻な実態になっている。また、職種別従業員に占める65歳以上労働者の比率は、訪問介護員が26.3%、介護職員が11.0%となって高齢化も進んでいる。厚生労働省が公表の介護職員の必要数は、全国では令和7年度には243万人、令和22年度には280万人、山口県では令和7年度には3万1,260人、令和22年度には3万2,782人に増加するとしている。必要数が確保されなければ、施設や事業所では定員どおりに利用者に向かい入れることができない。結果として、介護難民が生じるとともに、増加することが想定される。</p> <p>来年には、第9期田布施町介護保険事業計画が策定される。介護職員不足対策を「施設や事業所」あるいは「国や県」任せではなく、町内における介護職員の充足状況を調査・把握し、その実態を踏まえて独自の取組を含めた方針を次期計画に位置付けることはできないか。</p>	町長